

学習内容報告書 フォーマット

学校名	北海道標津高等学校
授業者	鈴木祐二

1. 単元計画

1-1. 単元名

野付巡検

1-2. 学年

1 学年

1-3. 教科

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

SDGs に関わる事前学習を実施し、持続可能な視点に立った学習とする。地学的側面から野付半島の成り立ちから自然環境、海洋環境との繋がりについて専門員を外部講師に招き講話を実施する。

巡検当日は、野付崎先端部までの特別上陸許可を申請し、先端部の散策を行い漂着物から海流や海外との関連性についての探究活動を行う。また、トドワラ周辺の散策路では、植物観察から植生についての学びを生物基礎の既習内容と合わせて学ぶ。漂着物を題材に SDGs14, 11, 12 の目標をテーマに海洋プラスチックゴミ汚染について学習し、課題解決に向けた探究活動を実施し発表する。

【協力機関・講師】別海町役場 野付半島ネイチャーセンター 専門員 石下 亜衣紗 氏

1-5. 単元設定の理由・ねらい

第1学年の総合的な探究の時間として実施することで地域の自然環境から歴史について教科横断的に学習し、地域に対する興味関心を高める。さらに、巡検を行うことで主体的に学ぶ態度を育成し、漂着物の調査を行うことで海洋の時空的なつながりに気づかせることをねらいとする。事後学習では、SDGs14 の目標をテーマに海洋汚染の現状を理解し、グループ活動から課題解決に向けた探究活動を行い、主体的で対話的な学びを実現させる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・豊かな自然環境に囲まれている環境を理解し、保全しようとする態度
- ・長い歴史の中に存在する自分を感じることで歴史に育まれた地域を理解しようとする力
- ・主体的に学び、表現する力
- ・自他の生命や個性を尊重し、自然と共生することの大切さを感じ取る態度
- ・SDGs を理解し、持続可能な海洋の利用について考える力

1-7. 単元の展開（全18時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	SDGs とは 用語としての SDGs について基礎的な学びを深める。教材を用いて、SDGs に対する興味関心を高める。	教材 ・ 未来を変える目標 SDGs アイディアブック ・ JICA SDGs パネル
1	外部講師による出前授業 外部講師による野付半島の地質学的学習と自然環境についての解説。アマモ場を中心にした生態系の学習。	外部講師 野付ネイチャーセンター専門員 石下 亜衣紗 氏
6	巡検当日 ・ 野付先での食性の観察と江戸末期の史跡を探索する。 ・ 先端部へ漂着する海洋ゴミから世界とのつながりを学ぶ。 ・ ネイチャーセンター付近の遊歩道にて植物観察とスケッチを行う。立ち枯れしたトドマツ・ミズナラの観察と野付半島の成り立ちを理解させる。	<巡検前> 安全指導と立ち入り制限地域での注意事項について指導。 漂着物の回収について注意指導 <巡検中> 生徒観察 引率教員による安全確認 <巡検後> ゴミの回収と分別（トラックへの積み込み） 生徒移動の準備 <自然観察> 遊歩道での安全指導 巡回指導 <外部連携> 野付ネイチャーセンター 別海町役場
5	事後学習 ・ 野付巡検の振り返り ・ 海洋プラスチック問題 ・ 海洋問題と持続可能な社会作り ・ グループ活動	資料作成に向けてサポート ・ パワーポイントの作り方 ・ 調査方法
2	・ SDGs の達成目標を意識したグループ発表 ・ 相互評価を実施	

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 5 時間中の 1～2 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- (1) 野付巡検の振り返りと海洋問題（海洋ゴミ問題：マイクロプラスチックゴミ 漁業・生活由来ゴミ 海外からの漂着物）について提起し、関連づけることで、SDGs とのつながりを意識させる。
- (2) SDGs14, 15, 12, 11 に絞り、海洋問題と持続可能な社会作りのため、世界や日本の現状を調べまとめる。海洋問題を時空的つながりから理解する。
- (3) グループ活動を行い、仲間と協力し意思疎通を図りながら、課題解決に向けたアクションプランを作成することで思いやりやコミュニケーション力を育成する。ICT 用いて資料にまとめ、発表する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>・各自のシートへ野付巡検とそこから感じた関連する SDGs の番号を書き出し、共有する。 書き出したことを班全体で共有</p> <p>(1) 野付巡検の振り返り 回収したゴミのデータをまとめ、沿岸流について学ぶ</p> <p>(2) 海洋問題についてパワポで学習し、データから傾向を読み解く 「北海道沿岸に漂着するゴミ」「プラ海洋流出の状況」 「マイクロプラスチックの被害」「漁業ゴミの問題」</p> <p>など例示して学習を進める</p> <p><グループワーク> SDGs11, 12, 14, 15 とプラスチック問題やエゾシカの食害に繋げたグループテーマを設定する。</p> <p><次回に向けて></p> <p>・設定したグループテーマと SDGs について各自で学習する</p>	<p>グループごとに着席（5人班✕5 6人班✕1）</p> <p>ワークシート用意</p> <p>本時の目標の確認</p> <p>・野付巡検のターゲットとして SDGs11, 12, 14, 15 に絞る</p> <p>・メインテーマを環境問題とする。</p> <p>・日本、世界の海洋プラ問題について提起する</p> <p>テーマを与える</p> <p>「漁業ゴミ・家庭ゴミを削減するためにできること」 「これからの持続可能な漁業について(未来の漁業)」 「これからのプラスチックを上手に使うには？」 「プラスチックリサイクルとそこにある課題を考える」 「海の豊かさを守るためにできること」 「海洋(マイクロ)プラスチックの現状と解決に向けて」</p>

・自分の意見を班員と共有できるように伝える準備を
行う



「野付の植生とエゾシカ食害を考える(野生生物との
共存)」
「その他」



3. 今回の活動の自己評価

2020 年度の実施より事前学習として SDGs に関する学びを取り入れることで事後学習の探究活動に積極的に学ぶ生徒が増加した。興味関心を我が事として捉え、アクションを考える生徒が多く見られた。

4. 今後の課題

総合的な探究の時間として1学年で実施するため、探究活動の基礎として学びを計画する必要がある。今回は、SDGs と身近な環境問題を結びつけた探究活動としたが、海洋教育からの視点はよい探究課題となる。探究方法をさらに研究する必要があると感じる。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点